

# ライフスタイルを華やかにする 服づくりを目指して。

青木 俊樹

専務取締役 / デザイナー・ブランド事業部



## もっと生の声

### Q & A

— 今後取り組んでみたい、実現してみたいことは？

弊社のブランドは現在、アーティスティックなデザインで重厚さと繊細さを表現する「FAGASSENT」、日常をテーマにした「青木被服」、そして固定観念に縛られない着物を提案する「DENIM KIMONO」の3つを展開しています。今後は、新生 DENIM KIMONOでは世界デビューを。FAGASSENTでは、DtoCの強化で顧客の拡大を。倉敷SOLAへの出店を皮切りに店舗展開の強化を計っていくことで、3つのブランドを通して、青木被服という会社がどんなものづくりをしているのかを知っていただきたいですね。

— やりがいは何ですか？

自分が好きなアーティストが自分のデザインした商品を着用してくれることや、コレクションが世界中で展開されていくことです。自信が持て、やりがいにも繋がりますね。2022年は、国内のレジェンドと呼ばれるミュージシャンのコスチュームデザイナーとしてツアー衣装を手掛け、現在、ツアーにも同行しています。

— 将来繊維産業に従事する人へメッセージをください。

岡山にデニムがあるように、日本国内にはまだまだ素晴らしい技術が多く眠っており、世界に向けてPRすべきものがたくさんあります。僕たちと一緒に未来を創っていきましょう！



小さな頃から音楽が好きだった青木さん。大学時代に、自分の好きなバンクロックミュージシャンのMVを見て、その世界観を表現する衣装デザインに感銘を受け、自分もそこに携わりたいという思いから、この業界に入ったそうです。最初の就職先の大手アパレルメーカーでは、生産管理を担当していましたが、デザイナーやディレクターなどの仕事を間近に見るうちに、自分もデザインなどもっとクリエイティブな仕事がしたいと思うようになり、退職しロンドンの芸術大学へ留学。授業では自分自身を表現することを学びながら、古着屋や現地のデニムブランドでインターンとしても働き、業界の流れや仕事を実践的に学びました。「留学生活の後半は、授業と並行して、自分の立ち上げたブランド「FAGASSENT」を売り込みに、週末ごとに各国を巡ったりもしました。大変でしたが、没頭してがむしやりに頑張ること、それを継続していくことが自信に繋がっていききましたね。」帰国後は、家業である青木被服に入社し、デザイン・企画を担当しています。

最近では、地域の技術と美術の融合を目的とした複合施設「倉敷SOLA」への出店など小売にも力を入れています。「この店舗では、デニムの固定概念を変える、艶やかでシルキーな高品質のデニムを多くの方に知ってもらえるような商品、ライフスタイルを華やかにするデニム製品を提案していきたいと考えています。」

「当社のある井原市には、綺麗な軟水が流れる川があって、それがデニムの染色に使われて高品質のデニム作りに繋がっています。今まで、世界中のいろんな場所を見てきたから分かる地域の良さがあって、自分が見た景色と地域資源をコラボレーションさせていくことが面白いし、アイデアを出したときに地域の方が喜んでくれると嬉しいです。岡山の良さを、世界中の人に伝えていきたいですね。」熱い思いを胸に青木さんの挑戦は続きます。

